

埼玉県衛生研究所報

ANNUAL REPORT
OF
THE SAITAMA INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No.16

1982

埼玉県衛生研究所

第 16 号 昭和 57 年

目 次

1	沿 革	1
2	組織及び事務分掌	2
3	職 員	3
	(1) 職員の配置状況	3
	(2) 職員名簿	4
4	業務報告	6
	(1) 疫学部・病理細菌部	6
	(2) 化学部	9
	(3) 食品衛生部	9
	(4) 環境衛生部	13
5	調査研究報告	15
	(1) サルモネラ感染症対策に関する調査研究(昭和56年度)	15
	(2) 精薄施設における集団赤痢の疫学的解析	23
	(3) 猩紅熱患者血清および健康児童血清におけるBlue-ASO(凝集法)とRantz & Randall-ASO(溶血法)の比較検討	30
	(4) 28-32nm ウイルスによる冬期嘔吐症の集団発生と浦和市におけるウイルス性胃腸炎の流行	39
	(5) 昭和56年度におけるインフルエンザの血清疫学調査	48
	(6) 埼玉県農山村住民におけるコレステロール値について -肥満および肝機能との関連-	60
	(7) 埼玉県内水道水中のトリハロメタンの調査(昭和56年度)	64
	(8) 硝酸、亜硝酸に関する研究(第2報) -ヒト血液中の硝酸、亜硝酸の含有量について-	73
	(9) 硝酸、亜硝酸に関する研究(第3報) -各種食品における硝酸、亜硝酸の含有量の実態調査について-	77
	(10) サラダおよびたまごやきの細菌汚染実態調査	82
	(11) 弁当によるウェルシュ菌食中毒の発生事例について	85
	(12) 埼玉県内における <i>Campylobacter jejuni/coli</i> の分布状況調査 -特にブタとウシについて-	89
	(13) 河川水の汚染総合調査(II) -元荒川および新方川水系(昭和56年度)-	92
	(14) 埼玉県における人畜共通寄生虫の調査研究 (2) 犬の寄生虫相について(1981年)	98
	(15) 大宮市および寄居町における蚊の発生消長に関する調査(1979年~1981年)	105
	(16) 荒川に不法投棄された有害汚泥についての調査(1981年)	112
	(17) アルミニウム精錬廃棄物の埋立と水稻枯死との因果関係についての調査(1978年~1980年)	117
6	資 料	127
	(1) 海外旅行者の腸管系病原菌検査(1981年)	127
	(2) 埼玉県の腸管系病原菌検出状況(1981年)	132

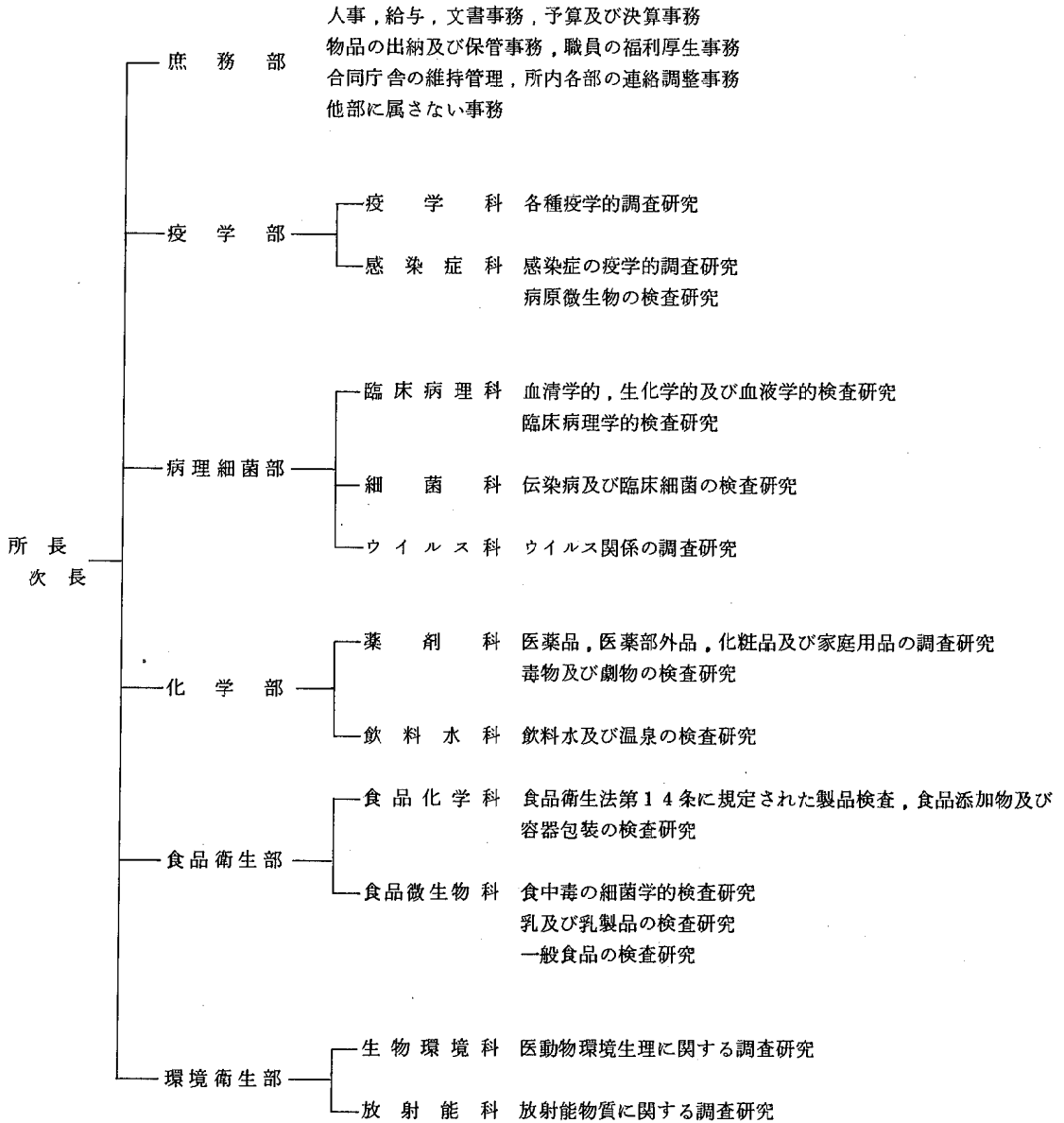
(3) 埼玉県のとびおよび環境から分離されたサルモネラ(1981年)	135
(4) 昭和56年度における風疹の血清疫学調査	138
(5) 下痢性貝毒による食中毒と検査結果について	143
(6) 表流水を水源とする水道水中のトリハロメタン	146
(7) 埼玉県における産業廃棄物について(1977年~1981年)(I)	150
(8) 埼玉県における産業廃棄物について(1977年~1981年)(II)	158
(9) 埼玉県における産業廃棄物について(1977年~1981年)(III)	165
(10) 埼玉県における産業廃棄物について(1977年~1981年)(IV)	172
(11) 埼玉県における産業廃棄物について(1977年~1981年)(V)	176
7 紹介	182
(1) 埼玉県における風疹の血清疫学的調査	182
(2) 28-32nm ウイルス粒子が検出された乳児急性胃腸炎	182
(3) 28-32nm ウイルス粒子が検出された流行性嘔吐下痢症の集団発生について	182
(4) A群及びB群溶連菌の菌体外 esterase に対する抗体の定量的測定法と猩江熱患者血清についての実施例	183
(5) 埼玉県におけるA群溶血レンサ球菌感染症の動向,特に臨床像について(昭和55年度)	183
(6) 埼玉県における腸管系伝染病発生の最近の状況	183
(7) 急性腎炎の集団発生をみた幼稚園児のA群溶血レンサ球菌疫学調査	184
(8) 埼玉県における海外旅行者の腸管系病原菌検索(1980年)	184
(9) 埼玉県の腸管系病原菌検出状況(1981年)	185
(10) 埼玉県主要河川のサルモネラ汚染年次推移(1971年~1981年)	185
(11) サルモネラ感染症対策事業中間報告	
1. 食肉(とくに生ヤマトリとブタ, トリの内臓)のサルモネラ汚染実態調査	185
(12) 結核菌薬剤耐性検査法の検討	186
(13) インフルエンザB/香港/72型とB/台湾/4/62との共通抗原因子について	186
(14) 実地医家におけるウイルス性胃腸疾患の原因的検索	186
(15) 埼玉県内一般土壌の病原菌調査	187
(16) 秩父地区小,中学生のB型肝炎ウイルス血清学的調査	187
(17) R村におけるHDL-コレステロール値について	187
(18) Mutagenicity screening of crude drugs with <i>Bacillus subtilis</i> rec-assay and <i>Salmonella</i> /microsome reversion assay	188
(19) Mutagenic activities of gentisin and isogentisin from <i>Gentiana radix</i> (Gentianaceae)	188
(20) Murexide Reaction of Caffeine using Nitric Acid	189
(21) Color Reaction of Benzaldehyde with 1-Naphthol in Concentrated Sulfuric Acid	189
(22) 生薬中の金属の溶出	190
(23) Formation of Trihalomethanes by Reaction of Halogenated Phenols or Halogenated Anilines with Sodium Hypochlorite	190
(24) 生薬の熱湯抽出物による変異原物質の活性阻害効果	190
(25) ゲンチアナのメタノール抽出物中の変異原性物質の分離,固定	191
(26) ハロゲン化フェノール類と塩素との反応によるトリハロメタンの生成	191
(27) ガスクロマトグラフィーによるカプリロヒドロキサム酸の定量	191
(28) ガスクロマトグラフィーによるナイカルバジンの定量	192

(29) ガスクロマトグラフィーによるエトバペートの定量	192
(30) 畜産食品中の合成抗菌剤の系統的分析法	193
(31) 飼料添加物合成抗菌剤のニワトリ組織および鶏卵中の残留と消失	193
(32) 飼料添加物の食品への残留.....	193
(33) 高速液体クロマトグラフィーによる鶏肉および鶏卵中ナイカルバジンの定量	194
(34) ガスクロマトグラフィーによる食品中の硝酸, 亜硝酸イオンの同時定量.....	194
(35) ガスクロマトグラフィーによる母乳及び血液中の亜硝酸塩, 硝酸塩の定量	194
(36) Spectrophotometric Determination of Nitrate in Vegetable Products Using 2-sec-Butylphenol ...	195
(37) Determination of Nitrate in Meat Products and Cheeses by Gas-Liquid Chromatography with Electron-Capture Detection	195
(38) 水田におけるアキアカネ幼虫のシナハマダラカ幼虫に対する天敵としての役割に関する研究 1. 捕食率推定における免疫電気浸透法 (ES法) 利用についての検討	196
(39) マーキング法によるチャバネゴキブリとクロゴキブリの移動と生息数の推定	196
(40) 人畜共通寄生虫の調査研究, 犬の寄生虫相について	197
(41) 埼玉県における放射能調査 (昭和55年度)	197
埼玉県衛生研究所報投稿規定	198

1. 沿革

年 月 日	概 要	備 考
昭和22年	衛生部の設置と同時に、警察部所管として明治30年に発足した細菌検査所を衛生部の所管とした。	
昭和25年10月	大宮市浅間町に食品衛生試験所を新設し、食品、環境、衛生獣医などに関する試験検査業務を開始した。	
昭和28年 2月	大宮市吉敷町1丁目に庁舎を新築し、細菌検査所と食品衛生試験所の業務を合併して、埼玉県衛生研究所として試験・検査・研究業務を行うことになった。 衛生研究所には、庶務課、病理細菌部（3科編成）、化学部（2科編成）、衛生獣医部（2科編成）及び生活科学部（2科編成）を設置した。	庁舎所在地 大宮市吉敷町1丁目124番地
昭和28年12月	開所式を行った。	
昭和32年11月	放射能研究室を新築増設した。	
昭和37年 9月	ウイルス研究室を新築増設した。	
昭和40年 5月 1日	病理細菌部に3科、化学部に3科、疫学部2科及び環境衛生部に3科を設置し、1課4部（11科）制とした。	
昭和43年11月 1日	公害研究部（2科）を設置し、1課5部（13科）制とした。	
昭和44年 5月 1日	庶務課を庶務部と改正し、6部（13科）制とした。	
昭和45年10月	公害センター設置により公害研究部を廃止し、5部（11科）制とした。	
昭和47年 4月	浦和市上大久保に新庁舎を新築した。	庁舎所在地 浦和市上大久保 639番地1
昭和47年 5月16日	大宮庁舎から移転し、業務を開始した。	
昭和47年 5月26日	開所式を行った。	
昭和48年 7月	食品衛生部（2科）を設置し、化学部を2科とし、6部（12科）制とした。	
昭和49年 5月29日	衛生研究所敷地内に動物舎を新築した。	
昭和50年 5月 1日	組織改正に伴い、従来の科名を県民になじみやすいように科名変更を行った。	
昭和52年 4月 1日	環境衛生部に廃棄物科を設置し、6部（13科）制とした。	
昭和53年 3月	検査棟（放射能研究室）を新築増設した。	
昭和57年 4月 1日	組織改正により、環境衛生部衛生工学科、廃棄物科を公害センターに移管し、6部（11科）制とした。	

2. 組織及び事務分掌



3. 職 員

(1) 職員の配置状況

(昭和57年10月1日現在)

職 名	区 分	事 務	技 術	そ の 他	計
所 長			1		1
次 長			1		1
部 長		1	4		5
科 長			6		6
主任 研究員			2		2
主任 (事)		2			2
主任 (技)			20	1	21
主任 (技 能)				1	1
主 事		2			2
技 師			10	1	11
技 師 (技 能)				3	3
計		5	44	6	55
部別内訳					
所 長			1		1
次 長			1		1
庶 務 部		5		2	7
疫 学 部			4		4
病 理 細 菌 部			9	2	11
化 学 部			10		10
食 品 衛 生 部			13	2	15
環 境 衛 生 部			6		6
計		5	44	6	55

(2) 職員名簿

(昭和57年10月1日現在)

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
		所 次 長	岡 田 正次郎 藤 本 義 典	所内統括 所長補佐	医師
庶 務 部		部 長 主 任 (事) 主 任 (技) 主 任 (事) 主 事 師 主 事 師 技 師	清 水 俊 夫 笠 川 和 子 松 本 茂 男 佐々木 育 子 小 暮 正 男 土 屋 貢 信 和 田 義 信	部内統括, 人事, 財産管理事務 決算, 經理, 物品事務 庁用車運転 給与, 福祉厚生事務 予算, 物品 (備品) 公有財産事務 經理, 文書 庁舎整理, 動物飼育管理	
疫 学 部	疫 学 科	主 任 研 究 員 主 任 研 究 員	唐 戸 哲 哉 中 村 雅 隆	疫学的調査研究 環境汚染の生物学的調査研究	医師
	感 染 症 科	技 師 技 師	松 岡 正 大 島 まり子	細菌学的, 血清学的調査研究 細菌学的, 血清学的検査研究	衛生検査技師 臨床検査技師
病 理 細 菌 部		部 長	奥 山 雄 介	部内統括, 細菌学的検査 血清学的調査研究	獣医師
	臨 床 病 理 科	主 任 (技) 技 師 技 師	河 橋 幸 恵 新 井 康 俊 野 本 かほる	生化学的検査, 血清学的検査研究 生化学的検査, 血清学的検査研究 生化学的検査, 血清学的検査研究	薬剤師 薬剤師 臨床検査技師
	細 菌 科	科 長 主 任 (技) 主 任 (技) 技 師 (技 能)	大 関 瑤 子 首 藤 栄 治 山 口 正 則 島 田 サ ト	科内統括, 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 試験検査補助	獣医師 獣医師
	ウ イ ル ス 科	科 長 技 師 主 任 (技 能)	村 尾 美代子 戸 谷 和 男 酒 井 正 子	科内統括, ウィルス学的検査研究 ウィルス学的検査研究 試験検査補助	薬剤師 薬剤師
		部 長	興 津 知 明	部内統括, 医薬品等検査研究 水質検査研究	
化 学 部	薬 剤 科	科 長 主 任 (技) 主 任 (技) 主 任 (技) 技 師	森 本 功 石 野 正 蔵 小 山 又次郎 野 坂 富 雄 渡 辺 富 士 雄	科内統括, 医薬品等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師
	飲 料 水 科	科 長 主 任 (技) 主 任 (技) 主 任 (技)	鈴 木 敏 正 松 田 勝 彦 広 瀬 義 文 鈴 木 章	科内統括, 水質検査研究 水質検査研究 水質検査研究 水質検査研究	薬剤師 薬剤師
		部 長	岩 崎 久 夫	部内統括, 食品等細菌学的検査研究	獣医師
	食 品 化 学 科	科 長 主 任 (技)	能 勢 憲 英 星 野 庸 二	科内統括, 食品化学検査研究 食品添加物検査研究	薬剤師

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
食品衛生部	食品化学科	主 任 (技)	田 中 章 男	食品添加物検査研究	薬剤師
		主 任 (技)	菊 池 好 則	食品添加物検査研究	
		主 任 (技)	斉 藤 茂 雄	食品添加物検査研究	
		技 師	堀 江 正 一	食品添加物検査研究	
		技 師	斉 藤 貢 一	食品添加物検査研究	
		技師 (技能)	土 屋 光 子	試験検査補助	
食品衛生部	食 品 微 生 物 科	科 長	德 丸 雅 一	科内統括, 食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任 (技)	栗 栖 誠	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任 (技)	正 木 宏 幸	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任 (技)	柳 川 敬 子	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主 任 (技)	板 屋 民 子	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		技師 (技能)	川 口 千 鶴 子	試験検査補助	
環境衛生部		部 長	服 部 昭 二	部内統括	獣医師
	生物環境科	主 任 (技)	武 井 伸 一	寄生虫原虫等検査研究	獣医師
		主 任 (技)	浦 部 研 一	衛生害虫昆虫等検査研究	
		技 師	高 岡 正 敏	寄生虫原虫等検査研究	
放射能科	主 任 (技)	中 沢 清 明	放射能測定, 分析調査研究		
	技 師	川 名 孝 雄	放射能測定, 分析調査研究		

埼玉県衛生研究所報投稿規定

(昭和51年9月改正)

1 所報は、埼玉県衛生研究所で行った調査、研究の業績を掲載する。投稿は、本所職員に限る。ただし、本所職員以外の共著者がある場合には、所属を*印を用い欄外に入れる。

例 * 埼玉県衛生研究所
** 埼玉県中央保健所

2 原稿は、所属部長を経て編集委員に提出する。なお、提出された論文については、編集委員会で検討を加える。

3 衛生研究所報の内容形式及び内容の順序

- (1) 業務概要
- (2) 総説 内容形式は自由とする。
- (3) 調査研究 印刷物として未発表のもので、新発見を含む論文とする。
- (4) 資料 調査資料、統計、ノート、短報、などを含む。
- (5) 紹介 過去一年間に他誌発表論文及び学会発表の内容紹介。

形式は、要旨が400字以内とし、別紙に氏名及び発表雑誌名(略号のあるものは略号を記入)、年号(西暦)巻、頁を氏名の下段に記入する。

学会発表のみの場合は、本文の最後に発表学会名と(年号)及び場所を明示する。

例 他誌発表の場合

題名
氏名

日本公衛誌(1974):21, (10) 123 - 129.

要旨(400字以内)

4 論文(調査研究)の形式

見出しは、方法(あるいは材料及び方法)、成績(あるいは結果及び考察)、考察、要約、謝辞、文献、の順に統一する。見出しは原稿の真中の上下一行をあけて書く。各見出しの後の細部の各項目は、次の順序に数字をつける。1, 2, ……; 1), 2), ……; (1), (2), ……。

5 原稿は、所定の原稿用紙A4判(20×20字)に横書きで記載する。枚数は、総説40枚、調査研究30枚、資料10枚、紹介1枚とする。ただし、規定枚数は、表、図及び写真を含む。

6 原稿には、表題と著者名(和文)をつけ、イタリック体となる字の下には____線をつける。(例: *Bovine*)

7 文章中の句読点(、。), ()には必ず一画を与え、- (ハイフン)は区画の中に明瞭に記入する。

8 数字は、すべてアラビア数字を用い、原稿は、原則として当用漢字、新仮名使用により記載する。

9 度量衡の単位は、m, cm, mm, μm , nm(10^{-9}m) ; l, ml ; kg, g, mg, μg , ng, pg (10^{-12}g) などを用いる。

10 表及び図の原稿は、別に専用原稿用紙または、同型の紙に貼りつけ本文の後に綴りあわせる。表及び図の入れる位置は、本文中の右欄外に矢印(←表1)で指定する。

11 図は、A4判の大きさの平滑な白紙または、青色グラフ用紙に黒インキで書く。図は、原則的には著者のものを用い、図中の字は、活字を使用することもできる。図の大きさに希望があるときは、大体の大きさを指定する。表中の線は、原則的には著者の希望に従う。表及び図に関する注釈は、本文中には入れない。

例: 表2 分離菌株の薬剤耐性(表の上の中央に記載する。)

図3 野菜、果実中の残留農薬(図の下の中央に記載する。)

Table及びFig. などの英字を用いる場合は、表及び図全体についても英字を用い、英文または、レタリングを使用すること。

12 本文や表での引用文献は、1), 2), 3)のごとく一画を与えて右肩に示し、最後に一括して列記する。引用文献は、原則として20以下とする。

13 文献は、下記のように著者名、年号(西暦)、表題、雑誌名、巻、(号)、頁の順に記載する。ただし、号は雑誌の頁が通し番号のものは除く。

例 1) 佃 信夫, 天野 慶之(1972): エビ類の黒変防止に対する亜硫酸塩の効果とその残存量について, 東海区水産研究所報告, 72, 9 - 19.

2) Mowbray, J. F. (1963): Ability of large doses of an alpha 2 plasma protein fraction to inhibit antibody production., *Immunology*, 6, 217 - 225.

14 脚注は、*印を用いて欄外に記入する。

15 提出論文などの編集委員会でのご取扱いについて

(1) 校正時の原稿の変更は認めない。どうしても必要なものは正誤表による。

(3) 初校及び二校は著者、三校(以後)は編集委員が行う。

(3) 編集委員は、次長を委員長とし、各部代表委員で構成する。

埼玉県衛生研究所報

第 16 号

昭和 58 年 3 月印刷

昭和 58 年 3 月発行

編集及び発行所 埼玉県衛生研究所

浦和市上大久保東639-1 〒338

電話 浦和 0488-53-6121

印刷所 株式会社 太陽美術

浦和市常盤 1-3-9

電話 浦和 0488-24-3261
